

荒木俊成のデザインペイント

基礎①「オンブレ（ぼかし）手法」



2017年2月1日（水）関西ペイント（株）大阪本社にて
行われたPXIペイントアカデミー ワークショップ

＜荒木俊成のデザインペイント基礎①
「オンブレ（ぼかし）手法」＞
についてレポートいたします。

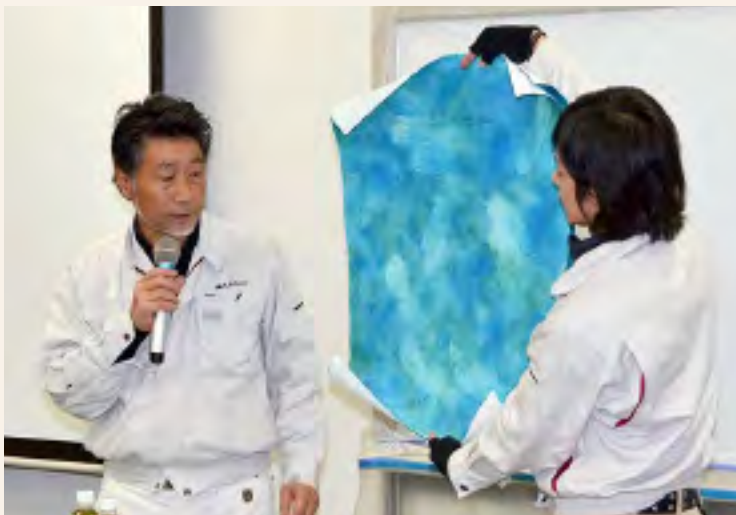
関西ペイントでは、内装ペイントの魅力を多くの方々に知っていただくため、PXIサイトを通じて様々なセミナー、情報・技術提供を行っております。2017年はさらに実践的な技術を学んでいただけるよう、デコラティブペイントの第一人者、荒木俊成さんをお招きして、ワークショップをシリーズで開催する予定です。今回はその第1回目として、基礎①「オンブレ（ぼかし）手法」について教えていただきました。

ワークショップ冒頭では、関西ペイント販売（株）・建築販売本部顧問保田孝より「デザインペイントの時代」が来ているというお話をさせていただきました。

「デザインペイント」とは、デコラティブペイントの多様なテクニックを応用したペイントを施すことにより、インテリア空間に新しい価値を生み出すことを目的に誕生した新ジャンルの呼称です。

今回、デザインペイントの新しい内装表現法などを多くの事例写真で紹介させていただきました。この「デザインペイントの時代」については、[PXI【コラム】](#)で5回にわたり詳しくご紹介していく予定ですので、こちらも併せてお楽しみください。





さていよいよ、荒木さんのご登壇です。最初にデコラティブペイントについて、そのルーツや現状のお話をされた後、これまで手掛けてこられた仕事内容について、実例の写真やサンプルと共に分かりやすくご紹介いただきました。

「私も最初は、一般的な建築塗装から覚えました。ストレートペインティングと呼ばれていて、きれいに万遍なく、ムラなく塗るのが命の仕事です。

一方、デコラティブはエイジング、フォーフィニッシュ（本物そっくりに描く）、アートという技法があり、かすれる・透ける・ムラにする、一般的な塗装と真逆の行為をすべて利用します」と荒木さん。本物そっくりに木目や大理石を描くのはもちろん、壁に使われている大理石と同じ模様のテーブルを造ったり、発泡スチロールに岩のようなデコラティブを施し、実際に水が流れる滝を造ったり…。いろいろな現場をこなすうち、時には驚くような依頼が寄せられるようになったそうです。現在、荒木さんは大型テーマパーク内の新しいアトラクションのため、パーク内の建物の一部にデコラティブペイントを施すお仕事もされています。夢の広がるお話ですね。





今回のワークショップでは、デコラティブペイントの基本的な技法の中から、3タイプのボカシテクニックを習得していただくことを目的としています。作品をお持ち帰りいただきやすいように、ボードではなく塗装用下地シートをご用意し、①ホワイト、②イエロー、③レッドの下地をそれぞれ1枚ずつ塗るところからスタートしました。シートが乾いたらよいよ実作業です。荒木さんのデモンストレーションを見ながら、シートに加えていく作業について学び、

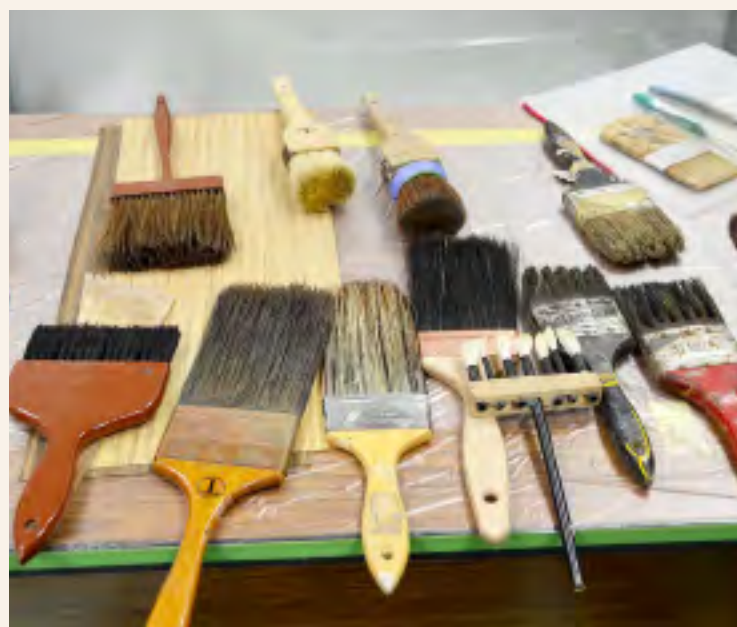
- ①スポンジによるボカシ⇒基本的なグラデーション
- ②ウオッシュ（霧吹き）によるぼかし⇒エイジング
- ③ローラーを使ったボカシ⇒レンガの肌地づくり

にトライしていきます。皆さん手際よく、また時折、荒木さんに細かい部分を確認しながら、楽しそうに作業を進められていました。

※テクニックの詳細については、改めてPXIサイト内のコラムでご紹介する予定です。お楽しみに。

こうして皆さんが作業を進める合間にも、荒木さんのお話は途切れることなく続きました。道具の紹介や作業上のコツはもちろん、これまで荒木さんが経験されてきた現場のお話やお施主様とのコミュニケーションの取り方、見積りの仕方など、貴重なお話が盛りだくさん。内容の濃いワークショップです。

またコンクリートの壁をイメージしたエイジングのデモンストレーションでは、日本で主流の方法と今流行りのアメリカ式の違いも見せてくださいました。日本ではこれまで、主に雨だれによる自然の汚れを手本にしたエイジングが行われてきたそうですが、今後はアメリカ式のように、キレイな色を取入れたエイジングが主流になるだろうとおっしゃっていました。



そのような中、「やりたいと思っていたことを失敗した場合はどうしたらいいですか?」という質問が受講者の方から寄せられました。

「デコラティブにはこれが正解だというのがありません。失敗もないです。何度でも軌道修正していいので、失敗を恐れずどんどんやってください」と荒木さん。皆さん少し、安心された様子でした。上達の要は、とにかくやってみること。たくさん見本を作り、こなれていくのが上達への近道ようです。

今回のワークショップでは「つながるペイント」を通じて、実際に作業をされているペインターの方も多数、ご参加いただきました。ランチミーティングもあり、荒木さんや普段出会えない方々との交流も深められたのではないのでしょうか。

最後に荒木さんから皆さん一人一人に、修了書が手渡され、作業も終了です。今回はグラデーションにいろいろトライしていただきましたが、デコラティブペイントは技法だけでも何千通りもあるといわれており、それらを組み合わせることでさらに独創的な世界を広げていくことができます。PXIサイトでは、これからもペイントに関する様々な情報発信を行いながら、デザインペイントのご提案などを併せてさせていただきたいと考えております。次回のワークショップは、6月頃を予定しております。ぜひご参加ください。お待ちしております！



*今回のワークショップでは、ご用意した塗装用具もお持ち帰りいただきました。